

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
米丸小学校	教科一般	独自教材の開発

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1「うまれる思い」「つながる思い」を大切にする授業づくり

「考えたくなる」「動きたくなる」有効なしかけを明らかにしていく。

- ・課題につながる題材の内容の工夫
- ・課題につながる題材の提示の工夫
- ・既習の効果的活用
- ・ゴールを意識し見通しをもたせた学習計画、授業展開
- ・ゆさぶりや問い返しの発問
- ・復習タイムの効果的活用



地域のゲストティーチャー



題材提示の工夫(具体物)

子どもの思いを大切に、変容につなげるための有効な手だてを明らかにしていく。

- ・目的を明確にしたペア交流・グループ交流
- ・意図的指名・他者説明
- ・思いや考えの視覚化・板書による思考の整理
- ・ゆさぶりや問い返しの発問
- ・「話し方・聴き方」の継続的指導 話し合いの習慣化

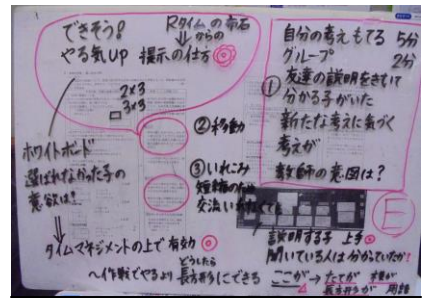


思いの変容を視覚化する板書

(2) 重点2 学ぶ楽しさをふくらませる子をめざす組織体制づくり

学ぶ楽しさのとらえを共通理解したり、新たな視点を増やしたりしていく。

- ・学年教材研究「単元を通してつきたい力」「意欲を高める教材の工夫」
- ・授業改善ポイントチェックシートによる効果的指導の共有
- ・校内研修会(10月基礎基本の定着を目指して)
- ・研究授業整理会
- ・地域教材副読本「わたしたちの米丸」作成



グループ研修(10月)

2 取組の検証

(1) 重点1について

- ・児童アンケートより

「自分の思いや考えをもつことができた」 …肯定的評価 94.1% ↑

「思いや考えを伝え合うことで『できた』『わかった』と感じた」 …肯定的評価 95.0% ↑

「くり返し復習することで自分の力がついたと感じた」 …肯定的評価 90.8% ↑

- ・教員アンケート

「考えたくなる・動きたくなるしかけを工夫できた」 …肯定的評価 93.6% ↑

「一人一人の思いや考えを大切にするかかわりの場を設定した」 …肯定的評価 90.3% ↑

(2) 重点2について

・授業改善ポイントチェックシート

1) 基盤づくり

：受けとめ合える集団づくり

2) 研究の重点1

：しかけの工夫

3) 研究の重点2

：かかわりの場の設定

4) 終末：まとめやふり返り

5) 見取り：できた・わかったの実感

・外部講師による指導助言

『国語科の授業づくり』

戸板小学校 西眞理子先生

普段からの積み上げ：「話す・聴く・書く」「視写語入」「年間を通して言語感覚を磨く」「板書を撮って次時や掲示に生かす」

R1 米丸小 授業改善 ポイントチェックシート 3学期				
()年()組 名前()				
★評価の仕方★ A・授業数の80%以上 B・80%未満～50%以上 C・50%未満～30%以上 D・30%未満				
チェック内容		1月	2月	3月
1	基盤づくり 互いの思いを出し合える、受け止め合える集団づくりを意識することができたか。			
2	重点① 考えたくなる・動きたくなるしかけの工夫をすることができたか。			
3	重点② 一人一人の思いや考えが大切にされるかかわりの場を設定することができたか。			
4	終末 学習内容を整理し、積み上げていくためのまとめや自分の変容を見つめるふりかえりをさせることができたか。			
5	見取り 児童は、学習の中でわかった・できたと感じていたか。			

授業改善ポイントチェックシート

3 成果と課題

学ぶ楽しさをふくらませる子を育成するため、「うまれる思い」「つながる思い」を大切にする授業づくりを目指すことが有効であると考えて取り組んできた。加えて、学びの土台となる「話す」「聴く」ことの指導や基礎基本の定着のための復習タイムを習慣化させてきた。

(1) 成果

- ・授業改善ポイントチェックシートによるふり返りを通して、子どもたちが学びを楽しむ姿やかかわり合う姿について効果的だった実践を学年会で共有できた。また、校内研修会や研究授業整理会においても、子どもの心に響くアプローチの仕方について少人数グループでの討議や全体交流の場を設けて共有してきた。これらのことにより「考えたくなる」「動きたくなる」しかけを多様に試みることができ、安心して前向きに授業に向かう子どもの姿が増えてきた。
- ・児童アンケートの結果からも、子どもたちが意欲をもち、自分の思いや考えをもてるようになったことや、「できた」「わかった」と感じられるようになったことがわかる。

(2) 課題

- ・学習意欲をさらに持続させ、学習内容を確実に積み重ねていくために、単元全体を通した「考えたくなる」「動きたくなる」しかけについて今後も探っていく必要がある。
- ・多様な考えを出し合いながら、深まりや変容のある学習にするために、教員間での情報交換や教材研究の場を効果的に設定し、課題や発問の質を高めていく。
- ・「できた」「わかった」の実感を伴った学習を積み上げ、さらに前向きに授業に参加させるために、復習タイムや適用問題などを使って確実な定着をめざす。